

# 憲 法

尾形 健・上田健介・井上武史  
櫻井智章・山本健人

## 1 はじめに

今期も、我々5名で担当する(担当箇所は個別に明示している)。昨期に引き続き、比較的若い世代の研究者による業績に比重を置きつつ、その概要の紹介等と、代表的な研究業績のリストアップを行った。原則として、外国憲法に特化したものは取り上げず(ただし、特に若手研究者の場合には比較法研究が中心となるため例外もある)、判例評釈・翻訳・書評・一般向けの書籍や雑誌記事などは取り上げない。収録範囲は、基本的に本誌2019年10月号から2020年9月号まで掲載された「文献月報」によるが、昨年取り上げたものは除くこととした。

## 2 論文集・雑誌連載等

今期は、深瀬忠一教授追悼論集ともいべき稲正樹ほか編『平和憲法とともに』(新教出版社、以下、「平和憲法とともに」)、考忠延夫教授古稀記念たる性格の大久保卓治ほか編『憲法入門! 市民講座』(法律文化社)が出された。論文集として、後藤光男=高島穰編著『人権保障と国家機能の再考』(成文堂)などがある。学会活動の成果として、ドイツ憲法判例研究会編(小山剛編集代表)『憲法の規範力と市民法(講座 憲法の規範力 第3巻)』(信山社、以下、「憲法の規範力」)、憲法理論研究会編『憲法の可能性(憲法理論叢書27)』(敬文堂、以下、「憲理研」)、全国憲法研究会編『憲法問題31』(三省堂、以下、「憲法問題」)などが刊行された。

概説書等については、日本国憲法コンメンタールである長谷部恭男編『注釈日本国憲法(3)』(有斐閣)、渡辺康行ほか『憲法Ⅱ 総論・統治』(日

本評論社)など、体系書の続編が相次いで刊行された。このほか、長谷部恭男『憲法学の虫眼鏡』(羽鳥書店)、同『憲法講話』(有斐閣)、吉田成利『大学生のための日本国憲法入門』(慶應義塾大学出版会)、高乗正臣『保育者のための法学・憲法入門』(成文堂)、松原幸恵ほか編著『はじめの一步 法学・憲法』(現代人文社)、浅川千尋『リーガルリテラシー法学・憲法入門』(法律文化社)、片上孝洋編著『現代憲法25講』(成文堂)、岡田順太ほか編『判例キーポイント憲法』(成文堂)、関根豪政=北村貴編著『体験する法学』(ミネルヴァ書房)、藤井正希『憲法口話』(成文堂)、憲法を楽しむ研究会編『憲法を楽しむ』(法律文化社)、京都憲法会議監修/木藤伸一朗ほか編『入門憲法学』(法律文化社)、2019年度憲法問題委員会『「自由」を守る最高法規「日本国憲法」』(経済同友会)などがある。雑誌連載の単行本化として、中林暁生=山本龍彦『憲法判例のコンテクスト』(日本評論社)、宍戸常寿ほか編著『戦後憲法学の70年を語る』(同)が出された。

雑誌特集等については、今期も、辻村みよ子責任編集『憲法研究』(信山社、以下、「憲法研究」)第5号・第6号が刊行され、第5号では「特集/政治改革と選挙制度の課題」が生まれ(「特集1/政治改革25年と統治機構・再考」、「特集2/選挙権と選挙制度をめぐる課題」)、第6号では特集「『知る権利』と『安全』」が組まれた(「特集1/『知る権利』の到達点と課題」、「特集2/現代社会の『安全』」)。このほか、「特集/参院選2019と法律家の課題」(法民541)、「特集/カジノがやってくる」(法セ782)、「特集/閉ざされた日本」(法民545)、「南開大学樹立100周年記念及び北東アジアの未来における法治 国際学術シンポジウム」(専所60)、「特集/